

軽量らくらく柿葉栽培拡大中！

要約

奈良県内の柿産地の一部地域では、生産者の高齢化により柿果実の生産管理が困難になり、耕作放棄園が増えてきている。

そこで、そういった地域に柿果実の生産よりも軽作業で柿園を管理できる品目として柿葉生産を提案し、柿葉栽培に向けた実証圃の設置や栽培指導を関係機関と連携しながら実施した。

今年度は実証圃を55a設置し、約35万枚の柿葉を県内の柿の葉寿司メーカーに出荷できた。
(H25年度：実証圃50a、柿葉出荷枚数：約26万枚)

現状(背景)と課題

- 生産者の高齢化により力キ果実の生産が困難となった園地管理対策が必要
- 柿の葉寿司の主材料である県内産柿葉の需要増加
- 柿葉生産の場合は柿果実の農薬と異なるため専作園が必要

目標

- 軽作業で柿園の管理ができる柿葉栽培の普及
- 県内産柿葉の安定供給体制の確立

活動内容

- 柿葉専作の栽培に向けた実証圃の設置と栽培指導
- 普及に向けた柿葉栽培の紹介
- せん定方法、病虫害防除などの栽培方法の検討
- 基礎データ(収穫枚数、収穫時間など)の収集

成果

- 柿葉生産実証圃：55a設置(H25年度：50a)
- 柿葉出荷枚数：約35万枚(H25年度：約26万枚)
- せん定方法、施肥、防除対策などを含めた柿葉生産栽培暦の作成(暫定版)



柿葉栽培の状況：五條市阪合部隣新田町(H26年7月)



柿葉剪定講習会：天理市萱生町(H26年12月)

普及活動のポイント

- ・実証圃や栽培園においての定期的な巡回指導をはじめ、販売業者・生産者との検討会などきめ細やかな支援活動を実施したことで安定生産に寄与した。
- ・栽培試験結果や病虫害発生などの情報を研究部門と共有することにより、常に新しい情報を生産者などへ提供・支援した。

対象の変化

- ・対象者が思っていた以上に軽労化が図れるため生産意欲が高まった。
また、カキ果実に比べ使用できる薬剤が極端に少ないなどの理解が深まった。
- ・新しく柿葉生産に向けた農事組合法人が設立された。
- ・柿葉専用園が新植された。

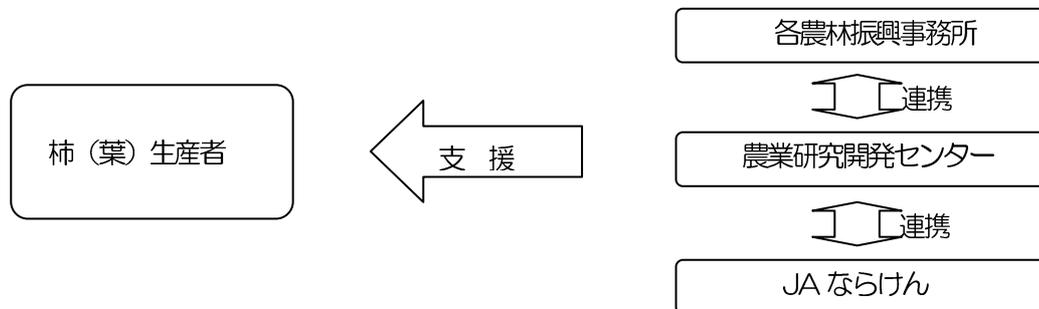
対象者からのコメント

- ・思っていた以上にせん定・栽培・収穫が楽なので、他の人にも勧めたい。
- ・収益も思っていた以上にあげられるのでよい。

これからの活動ビジョン

- ・H24年度から本格的に栽培が開始されたが、せん定方法、病虫害対策などの栽培面や収益面での課題もある。今後これらを解決していきながら柿葉を安定生産できる体系を確立していく。
- ・今後も生産者の増加が予想されることから、新規参入者に対する指導方法も検討していく。

活動体制



用語解説

実証圃

実際に栽培の実証を行うための圃場（畑）。